



田中 博：自然による自然のための自然博物館 —ひろしま生きた自然博物館の場合—

「理科好きっ子」育成のホームグラウンドを広島市内に開く構想を、元理科教師たちが温めている。お目当ては、広島湾に突き出した宇品島（元宇品）。原生林など太古の自然が残る瀬戸内海国立公園の島を「生きた博物館」に見立て、観察や学習のエコ・ツアーにいきなう。島内のホテルも、原爆ドーム、宮島に続く観光資源として宇品島巡りを宿泊プランに組み込むなど機運が高まってきた。（中国新聞 2004年3月2日記事より抜粋）

元宇品は広島市街地の鼻先に浮かぶ、外周約3 kmの陸繋島でクスノキやシイなど県内有数の常緑広葉樹林で覆われている（図1）。市内で珍しく自然海岸が残り、ほぼ全域が瀬戸内海国立公園に属している。この自然豊かな島が「ひろしま生きた自然博物館」である。

我が国は地下資源に乏しく、厳しい国際競争のなかで生き残るためには科学力を高めなければならないことは論を待たないが、広島市においても科学教育の重要性はよく認識されている。しかしながら、理科教育に必要な自然史博物館が市内にはない。財政難でハコモノ建設は無理というわけである。それならば、自然そのままを博物館と考えれば良いと発想を変える。だが、科学は目的を誤ると大変なことになる。その点、科学の進歩をもってしても作れない大自然の力をかりて、自然に畏敬の念をもち謙虚な心を育てようと考えている。自然が館長である。

当館では、組織よりも機能を優先させて、小回りがきくよう運営している。考えが片寄らないように異業種の者27名が集まり、その中で専門スタッフとして16名が主に活動している。博物館として何が発信できるか。スタッフは現役とOBの混成であるが、自然科学の専門分野をライフワークとしているため指示待ち人間は一人もおらず、活動課題が決まれば、それぞれがアイデアを出し、各自で仕事をすすめていくので、



図2 元宇品自然探索カード。海藻は11種を掲載。

優秀な学芸員を無償でかかっているようなものである。

これまでに「元宇品自然観察マップ」、旅行者のための「元宇品自然探索カード」（図2）、広島市付近を対象に4地区に分けた「学習ワークシート」を作成して学校、公民館、青少年育成団体などに無償配布しているが、大変喜ばれ高い評価をいただいている。そのためにかかる印刷製本代は主に広島鯉城ライオンズクラブから援助をうけている。

展示については、本のために移動図書館があるように、標本のために移動博物館があっても良いと考え、広島市内を中心に公民館、銀行、ホテルその他公共施設のロビーを利用して海藻標本・岩石標本などを展示した。このことは新聞でも紹介されたので、結構、見学者があり、時には私が解説者となって海藻に関心をもってもらうよう啓発活動をした。

現在も当館が主体となり未来館と称したグループが、日本宇宙少年団広島分団と連携し、天体観測、モデルロケット打ち上げ競技大会など計画している。その他、現在の公立小学校であまり取り扱っていないエネルギー関係の教材化をはかっている。予算がないとできないというのは言い訳に過ぎない。どうしたら実現できるか前向きな意欲と将来的な発想で運営している。事務局を引き受け、毎月行っているスタッフの協議会・行政面での折衝など献身的支援をしてくださっている広島市ひと・まちネットワーク吉島公民館に大変感謝している。

（広島大学大学院水圏循環制御論研究室）

【ひろしま生きた自然博物館】

所在地：広島市南区元宇品23-1（宇品島）、交通：市内広島バス・バスセンターより乗車のちプリンスホテルで降車（210円）、有料駐車場あり、代表：〒731-0137 広島市安佐南区山本8-31-14 田中 博、Tel & Fax：082-874-8880、E-mail：kaisou-hiroshi@giga.ocn.ne.jp



図1 元宇品。約230種の海藻が採取された。